

第50回記念少林寺拳法全日本学生大会

2016年11月6日（日）、日本武道館において、「第50回全日本学生大会」が144校1697名の参加を得て開催されました。今回は、50回の記念大会として行われ、前日5日には記念祝賀会も開催され、いずれもテーマは「残心」が掲げられました。このテーマには、50年間という歴史がある中で常に成長、発展を遂げてきた少林寺拳法を今一度立ちかえり、成長、発展に尽力してくださった諸先生・諸先輩方に感謝をしたいという思いが込められています。前日「ホテルグランドパレス九段下」で行われた記念祝賀会では、これまで本大会に貢献された会長をはじめとした方々に対して感謝状が贈られた他、歴代委員長の方などの紹介、エピソードなども披露され、盛会の内に会が進行しました。

大会当日は、午前中に予選が行われ、午後から本選を含めて大会が開催されました。大会に先立ち、アトラクションとして日本女子体育大学による新体操の演技が披露され、大会に彩りが添えられました。開会式では、松平頼武大会会長による挨拶、続いて来賓として、石原伸晃少林寺拳法振興議員連盟幹事長（大会顧問）及び川島一浩少林寺拳法連盟会長の挨拶が行われ、いずれも今後の学生連盟等に対する期待が述べられるとともに、学生にとっての大きな励みとなりました。また、山本望実行委員長により本大会開催とこれまでの学生連盟への思いが熱く語られました。本選では、各大学がこれまで修練してきた演武及び立合評価法の成果が存分に発揮され、見応えのある内容となりました。閉会式では、当初、各地区の次期委員長の紹介・挨拶があり、今後1年間の決意が表明され、新たな体制における熱意と期待が込められました。その後、大野木憲三審判団長による講評が行われ、続く成績発表、最優秀演武等披露、表彰では受賞者に対する惜しみない拍手が送られました。また、受賞者には副賞として各地区の特産品等も添えられ、和やかな表彰となりました。閉会式終了後には、アリーナで参加大学によるパフォーマンスも見られる等、50回を祝う雰囲気の中、2日間にわたる大会が終了しました。今回の大会開催にあたりご尽力いただいた方々に感謝と敬意を表します。（少林寺拳法連盟東京事務所）

*写真は次ページをご覧ください。

開会式



アトラクション





挨拶





演 武





演 武

立合評価法

